

獣害対策研究

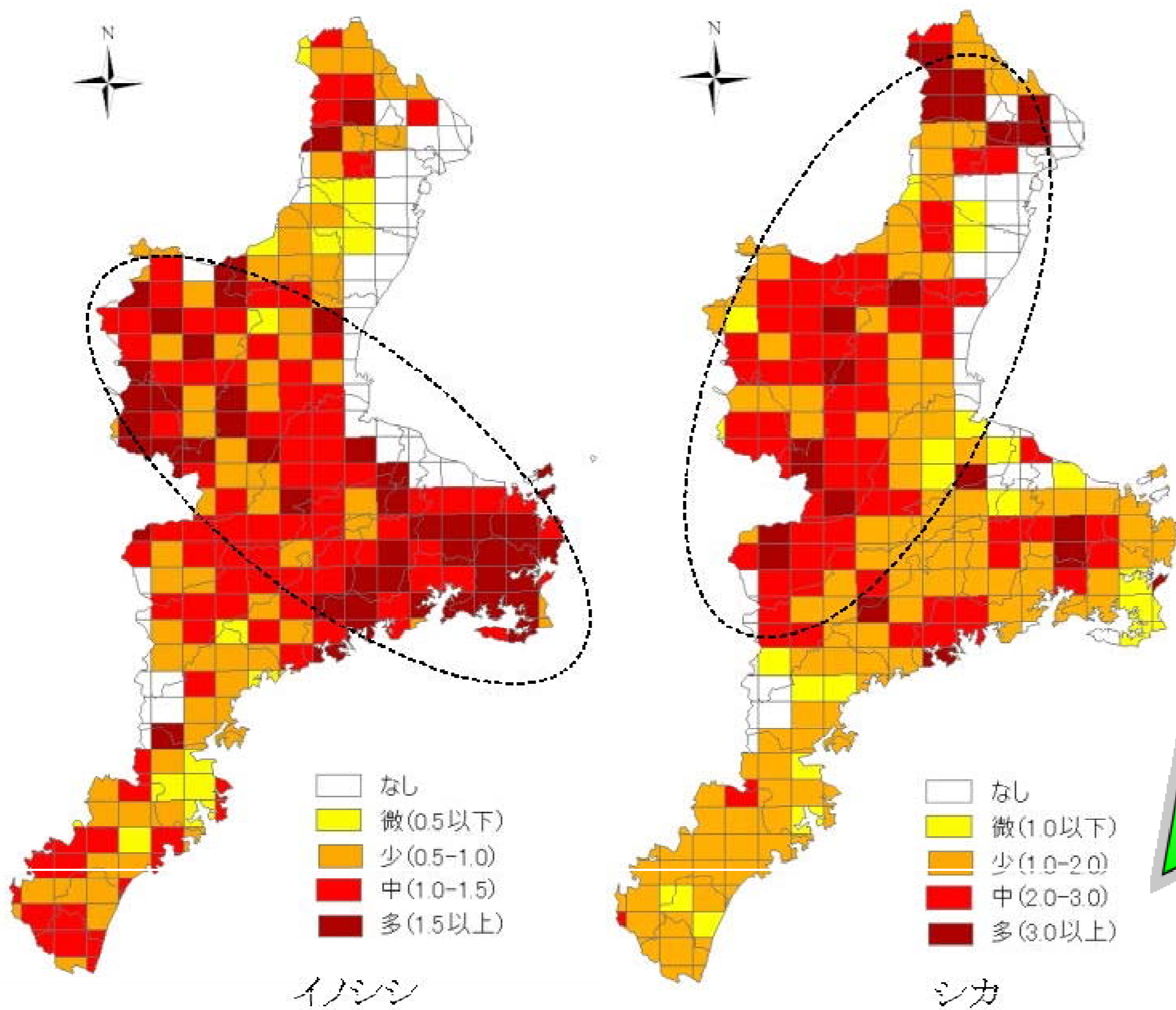
獣類の生態に基づいた適切な被害防止技術を開発するとともに、それら技術を使用し地域ぐるみで獣害防止対策に取り組む地区・集落を育成し、獣類による農作物の被害低減を図り、農業者が安心して農作物を生産できるような体制及び地域作りに関する研究を行っています。

狩猟者の出猟報告を活用した イノシシおよびシカによる農作物被害程度の推定

図1 イノシシ、シカの目撃率

注) 目撃率は各年の猟期において5kmメッシュ単位に次式により算出し、H14からH17の4カ年を平均した。
目撃率 = 年間目撃頭数 / 年間出猟回数

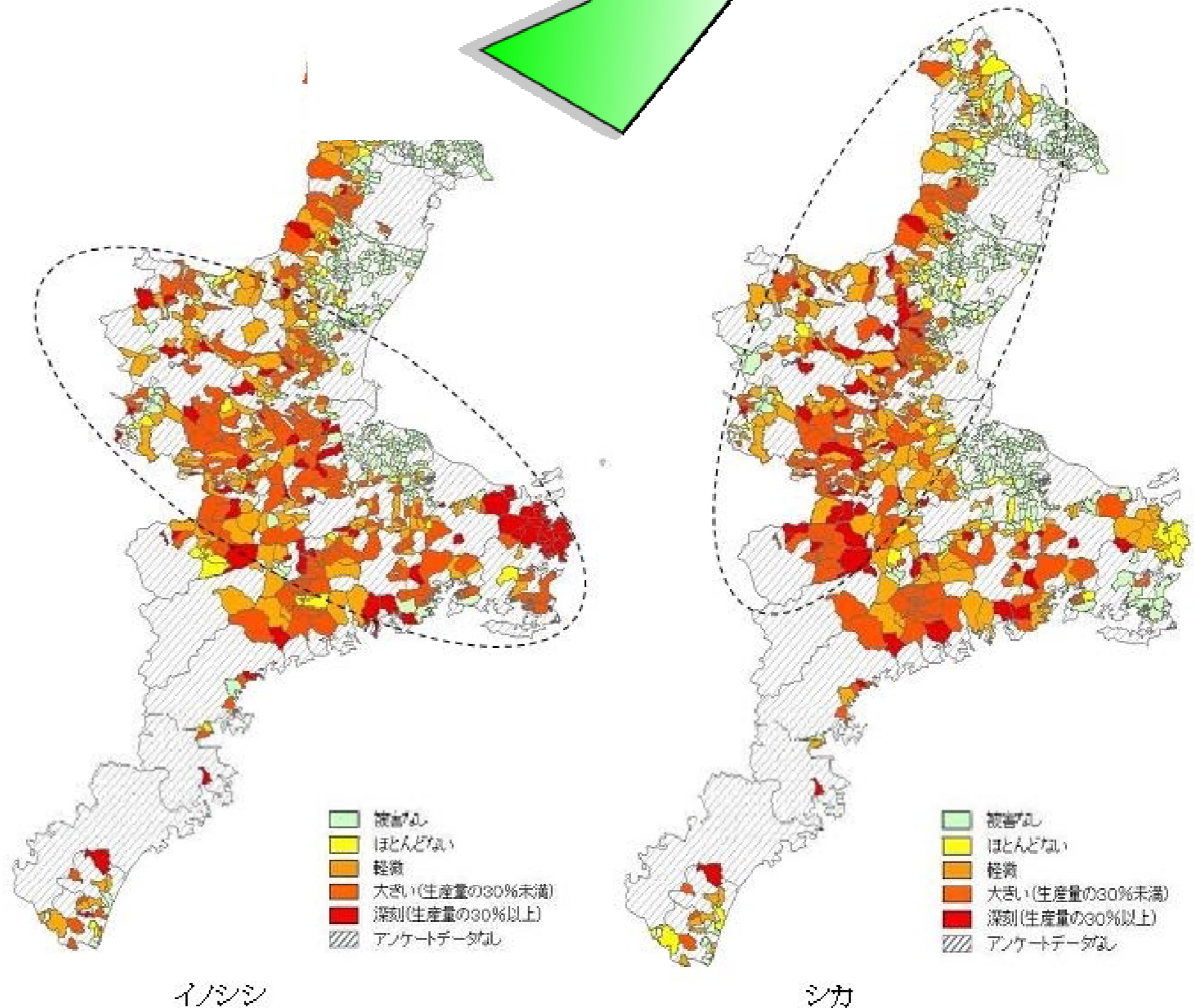
イノシシでは志摩半島から伊賀地域にかけての県中央部で、シカでは伊賀地域から鈴鹿山脈にかけての脊梁地帯で目撃率が高い。



イノシシでは志摩半島を中心に伊賀地域にかけての集落、シカでは伊賀地域を中心とした集落で被害程度が高い

図2 イノシシ、シカによる
集落被害程度 (H18)

注) 県内2259集落の集落代表者へのH18年度の農業被害に関するアンケート調査による



集落被害程度と集落が含まれるメッシュの目撃率との関係を見ると、集落被害程度が高いほど目撃率が高くなり、このことからイノシシ、シカの各獣種について、出猟報告情報をもとにした目撃情報により農作物被害の程度を推定することができます。